

- 問1 長崎県壱岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）
1. 『宋書』倭国伝 2. 『後漢書』東夷伝 3. 『魏志』倭人伝 4. 『漢書』地理志
- 問2 1世紀半ば、奴国の王が中国の王朝（漢）に使者を送り、金印を授けられたという出来事について、その当時の国際関係のあり方や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 山口県公立入試 類似）
1. 対等な立場での外交を求める国書を送り、大陸の進んだ律令制度を日本へ速やかに導入することを目的とした 2. 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ることで、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした 3. 仏教を日本に広めるため、優れた経典や仏像を日本へ持ち帰る許可を皇帝に求める使節を派遣した 4. 朝鮮半島での軍事的な優位を確保するため、中国の王朝と軍事同盟を結び、援軍を派遣してもらう約束を取り付けた
- 問3 弥生時代の3世紀、邪馬台国の卑弥呼が中国の「魏」に対して使いを送った目的と、その結果として当時の国際情勢から読み取れる背景として最も適切なものはどれか。（2017年 東京都公立入試 類似）
1. 日宋貿易を円滑に進めるために、大輪田泊のような港湾施設を整備して中国との経済的な結びつきを重視した。 2. 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。 3. 全国的な徴税制度である大宝律令を確立させるために、中国から法制度の専門家を招いて政治改革を推進した。 4. 隋の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して「日出づる処の天子」という国書を届けさせた。
- 問4 1世紀半ばに日本の「奴国」の王が中国へ使者を送り、皇帝から金印を授かったという出来事が記されている、当時の中国の歴史書として正しいものを答えなさい。（2016年 大阪府公立入試 類似）
1. 史記 2. 魏志 3. 後漢書 4. 日本書紀
- 問5 弥生時代の稲作の普及に伴って変化した人々の生活や道具について述べたものとして、正しいものはどれか。（2023年 佐賀県公立入試 類似）
1. 金属器はまだ伝わっていなかったため、すべて木製の農具と黒曜石の打製石器のみで耕作が行われた。 2. 稲作を管理するために、強力な権力を持つ支配者が各地に巨大な前方後円墳を築かせた。 3. 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。 4. 人々は獲物を求めて移動生活を続け、土器は表面に縄目の文様がある厚手で大まかな作りのものが主流となった。
- 問6 1世紀半ばの日本（倭）において、九州にあった奴国の王が中国の王朝に使者を送り、皇帝から金印を授けられたという記録が中国の歴史書に残されています。このとき、奴国の王に金印を授けた中国の王朝として正しいものを次の中から選びなさい。（2026年 山口県公立入試 類似）
1. 隋 2. 秦 3. 魏 4. 漢
- 問7 中国の歴史書『魏志倭人伝』の中で、邪馬台国の女王が即位した経緯や背景について説明した一節があります。その内容として最も適切な説明を次から選びなさい。（2026年 岐阜県公立入試 類似）
1. それまでの世襲制を廃止し、中国の皇帝による直接的な任命によって、最も外交能力の高い女子を王とした。 2. 大規模な干ばつや飢饉が続いたため、農業の神に仕える特別な血筋を持つ女子を王とした。 3. 仏教の教えを広めることで民衆の心を安定させるため、優れた徳を持つ女子が大陸から招かれて王となった。 4. もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。
- 問8 古代の日中関係をまとめた学習レポートにおいて、5世紀のヤマト王権による外交について記述する場合、その内容として正しいものはどれですか。（2025年 神奈川県公立入試 類似）
1. 奴国の王が中国の後漢へ使節を派遣し、光武帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かって、北九州での地位を確立した。 2. 小野妹子が遣隋使として中国の隋へ派遣され、対等な立場での外交を求める国書を提出して、新しい官制や憲法を導入しようとした。 3. 「倭の五王」と呼ばれる王たちが、中国の南朝に使節を派遣し、朝鮮半島での軍事的な指揮権や自らの地位を認めさせようとした。 4. 邪馬台国の卑弥呼が中国の魏に使節を派遣し、「親魏倭王」の称号とともに金印を授かり、国内の小国連合の統制を強めた。
- 問9 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、集落の周囲に深い濠（ほり）や土塁を巡らせた「環濠集落」の代表例として知られています。このような大規模な防衛施設を持つ集落が弥生時代に造られるようになった社会的背景として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
1. 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐめる集落間の争いが激しくなったため 2. 頻発する大規模な洪水や高潮から、住居や高床倉庫の浸水を防ぐ必要があったため 3. 狩猟や採集の効率を上げるために、獲物となる動物を追い込む囲いが必要だったため 4. 仏教の伝来にともない、寺院を中心とした聖域を保護する必要が生じたため
- 問10 弥生時代の祭祀に使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 滋賀県公立入試 類似）
1. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。 2. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。 3. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。 4. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。
- 問11 弥生時代に製作された銅鐸や銅鏡などの青銅器について、その主な役割や目的として最も適切な説明はどれか。（2026年 新潟県公立入試 類似）
1. 大陸との交易において、通貨の代わりとなる経済的な手段として用いられた 2. 稲作の豊穰などを願うための祭祀の道具として用いられた 3. 集落間の争いにおいて、敵を攻撃するための強力な武器として用いられた 4. 木材を加工したり土を掘り起こしたりするための実用的な工具として用いられた
- 問12 弥生時代に大陸から稲作が伝わり、食料を蓄えることが可能になったことで生じた社会の変化について、最も適切な説明を選んでください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
1. 政府から農民へ平等に土地が割り当てられ、収穫した稲を税として納める制度が整った。 2. 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。 3. 表面に縄目の文様がある、厚手で黒褐色の土器が全国的に作られるようになった。 4. ナウマン象などの大型動物を狩猟するために、人々は移動を繰り返しながら生活するようになった。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 『魏志』倭人伝	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多くの小国に分かれ、交易を行いながらも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。
問2	答え 2 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ること で、自身の王としての地位を認めさせ、国内 での権威を高めようとした	当時の日本（倭）は多くの小国に分かれて争っており、各国の王は、強大な力を持つ中国の皇帝に貢物を捧げる「朝貢」を行いました。それに対して皇帝がその土地の支配権を認める（冊封）ことで、王は自国内や周辺の国々に対して自分の正統性や優位性を誇示しようとした。1世紀の奴国の王による外交も、こうした背景によるものです。
問3	答え 2 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認め られることで、国内の諸勢力に対する支配力 を強化しようとした。	当時の東アジアでは、中国の皇帝に朝貢して臣下としての称号を受けることで、周辺諸国の王が自らの地位を保証してもらう「冊封（さくほう）」という仕組みがありました。多くの小国が対立していた弥生時代の日本（倭）において、卑弥呼が強力な「魏」の皇帝から「親魏倭王」の称号を得たことは、他の勢力に対して自らの権威を示す強力な武器となりました。聖徳太子が隋に対して対等な外交を試みたのは後の7世紀の出来事であり、卑弥呼の時代はまだ中国を中心とした秩序を利用して国内統治を安定させようとしていた段階にあたります。
問4	答え 3 後漢書	西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から金印を授かった事実は『後漢書』東夷伝に記されています。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」の金印は、この記述を裏付ける重要な史料となりました。3世紀の卑弥呼について記された『魏志』倭人伝とは時代が異なるため、区別が必要です。
問5	答え 3 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高 床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包 丁などが使われた。	稲作の定着により、食料を貯蔵するための高床倉庫が造られるようになりました。また、石包丁による「穂首刈り」が行われ、木製農具や、大陸から伝わった金属器（鉄器・青銅器）も併用されるようになりました。縄目の文様の土器は縄文時代、前方後円墳は古墳時代の特徴です。
問6	答え 4 漢	中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から印綬（金印）を授かったことが記されています。この金印は、江戸時代に福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の文字が刻まれたものと一致すると考えられています。設問にある1世紀という時期は、中国では漢（後漢）の時代にあたります。
問7	答え 4 もともと男子を王としていたが、国の中が乱 れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女 子を王とした。	史料には「その国、本また男子を以て王となし、住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす」という記述があります。これは、2世紀後半に起こったとされる「倭国大乱」という戦乱状態を収拾するために、呪術的な権威を持つ卑弥呼を王に立てることで、諸国の連合体としての安定を図ったことを示しています。
問8	答え 3 「倭の五王」と呼ばれる王たちが、中国の南 朝に使節を派遣し、朝鮮半島での軍事的な指 揮権や自らの地位を認めさせようとした。	5世紀のヤマト王権（倭）では、「讃・珍・濟・興・武」の5人の王（倭の五王）が、中国の南朝に次々と使節を送りました。これは当時の中国の歴史書である『宋書』倭国伝に記されています。彼らは、朝鮮半島の百済や加羅（加耶）などに対する軍事的な指揮権や影響力を中国の皇帝に認めてもらうことで、国際的な地位を高めようとした。3世紀の卑弥呼は「魏」に、1世紀の奴国王は「後漢」に使節を送っており、時期と王朝の組み合わせを正しく把握することが重要です。
問9	答え 1 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集 落間の争いが激しくなったため	弥生時代に大陸から本格的な水稻耕作が伝わると、収穫物の余剰を蓄える「富」が生まれ、それを奪い合う争いが始まりました。吉野ヶ里遺跡に見られる深い濠や逆茂木（さかもぎ）、物見やぐらなどの施設は、敵の侵入を防ぎ、共同体の財産や命を守るために発達した軍事・防衛的な工夫です。
問10	答え 1 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を 反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問11	答え 2 稲作の豊穰などを願うための祭祀の道具とし て用いられた	弥生時代の金属器には役割分担がありました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用的な道具として使われました。一方で、青銅器は加工しやすく美しい光沢を持つため、神をまつる儀式や村の行事で使われる祭祀具（宝物）として発展しました。
問12	答え 2 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって 、ムラの間で争いが起こるようになった。	稲作が普及すると、生産力の向上により食料の蓄え（余剰生産物）ができるようになりました。これにより、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれるとともに、稲作に不可欠な土地や水の利権をめぐって集落（ムラ）同士の争いが発生するようになりました。こうした争いを通じて、次第に多くのムラを統合する小国が形成されていきました。